



「貴方、またサボってるの？」

咲夜さんから注意を受けている大男

オーガ召喚の儀式中に事故でやってきた
外来人らしい……



「…どうやら指導が必要みたいね」

「私の部屋に来なさい。再教育して上げるわ」

またメイド長を怒らせているらしい
部屋からは折檻の音が絶えないという…気の毒に



「もう我慢できなくなつたのか？
これじゃ毎日舐けてる意味が無いなw」

♡♡♡♡♡

すー！♡

♡♡♡♡♡

はー！♡

すり♡すり♡

すー！♡

はー！♡

「...こんな状態で館を
うるつかれるのは困るのよ」

「指導とか言つて、そつちがムラムラしたただけだろ？」

「黙りなさい...んお♡」

日に日にこの男のちんぽに屈服していく

くさっ♡

♡♡♡♡♡

すー！♡

♡♡♡♡♡

はー！♡

すり♡すり♡

すー！♡

はー！♡

屈辱だわ…こんな醜悪なおちんぽ如きで

んお♡頭痺れる♡

まんこ準備完了するッ♡

はやく、何とかしないと…
あつ、無理イクッ♡

カッ！カッ！カッ！

ん！ん！ん！



「最低…んっ♡」

びゅっ♡

びゅんっ…♡

「ほら、服従のキスだ。愛情を込めてな」

むわぁ♡

グ
ッ
ッ
♡

い
ゅ
ほ
♡

グ
ッ
ッ
♡

い
ゅ
ほ
♡

グ
ッ
♡











「おいおい、今日は俺を先にイカせるんじゃないや
なかつたか？そんな温い腰じゃまだまだだぞ」



「良いから黙ってなさい…おッ♥」

大丈夫…自分がイキそうになったら時を止めて
やり過ごせば、私が有利…！

あつ無理、ムリムリ挿入ただけで…ッ♥





「遅えよ」

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!
♡





「貴方、またサボってるの？」

咲夜さんから注意を受けている大男

オーガ召喚の儀式中に事故でやってきた
外来人らしい……



「…どうやら指導が必要みたいね」

「私の部屋に来なさい。再教育して上げるわ」

またメイド長を怒らせているらしい
部屋からは折檻の音が絶えないという…気の毒に



『もう我慢できなくなつたのか？
これじゃ毎日舐けてる意味が無いなw』

♡♡♡♡♡

すー！♡

♡♡♡♡♡

はー！♡

すり♡すり♡

すー！♡

はー！♡

『…こんな状態で館を
うるつかれるのは困るのよ』

『指導とか言つて、そつちがムラムラしたただけだろ？』

『黙りなさい…んお♡』

日に日にこの男のちんぽに屈服していく

くさっ♡

♡♡♡♡♡

すー！♡

♡♡♡♡♡

はー！♡

すり♡すり♡

すー！♡

はー！♡

屈辱だわ…こんな醜悪なおちんぽ如きで

んお♡頭痺れる♡

まんこ準備完了するッ♡

はやく、何とかしないと…
あつ、無理イクッ♡

カッカッカッ

んんん

「ほら、服従のキスだ。愛情を込めてな」

びゅんっ♡

びゅん♡

むわぁ♡

「最低…んっ♡」



キ
ッ
♡

い
ほ
♡



キ
ッ
♡

い
ほ
♡

キ
ッ
♡









「おいおい、今日は俺を先にイカせるんじゃないや
なかつたか？そんな温い腰じゃまだまだだぞ」



「良いから黙ってなさい…おッ♥」

大丈夫…自分がイキそうになったら時を止めて
やり過ごせば、私が有利…！

あっ無理、ムリムリ挿入ただけで…ッ♥





「遅えよ」

おっ!

おっ!
♡

Kha!

Kha!









































